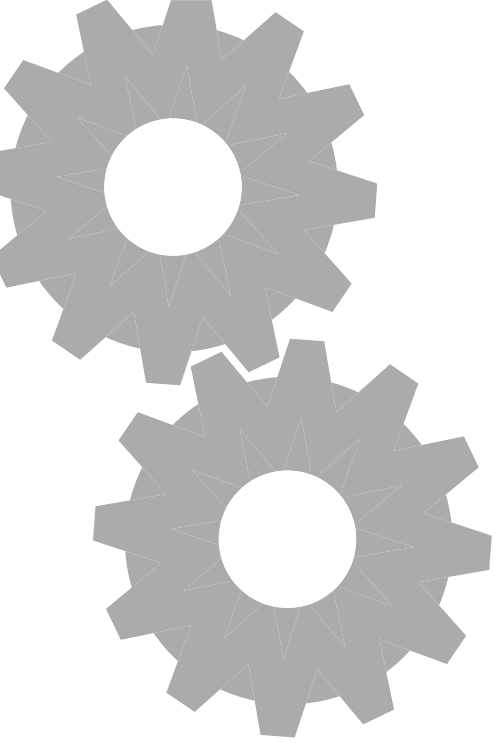


# 万遊鏡



## ごあいさつ

わらべ館 館長 岩成 潔一

平成7年7月7日に開館した鳥取童謡・おもちゃ館「わらべ館」は、14年目を迎えました。平成元年開催の「鳥取世界おもちゃ博覧会」を顕彰する施設、そして「童謡・唱歌のふるさと鳥取」を顕彰する施設という二つのテーマに基づき、これまでいろいろな角度から調査研究や普及啓発に取り組んできております。また、館内は、「童謡の部屋」と「おもちゃの部屋」に分かれ、どちらのテーマも楽しみながら学べるよう工夫しております。

おもちゃや遊びの展示としては、年4回開催される「ギャラリー童夢企画展」と「特別展」があり、それぞれのテーマに合わせて、館の収蔵資料のみならず、他館や個人からお借りした資料を展示しております。その報告書として、このたび『万遊鏡』第5号を発行する運びとなりました。企画展・特別展に際し、資料を快くご提供くださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。

今後も、おもちゃや遊びに関する情報の収集と発信に努めてまいります。『万遊鏡』をお読みになられた皆様からご意見、ご感想をぜひお聞かせ願います。

平成22年3月吉日

## 目次

ごあいさつ

### ◆ギャラリー童夢企画展

口絵	1
団欒のカード&ボードゲーム	5
しかけのおもちゃ	9
平成20年度新収蔵資料展	13
ようこそ！寅の穴―干支の郷土玩具展	16

### ◆特別展

孫への贈りもの～木のおもちゃと押し花展～前田俊美・増美二人展	20
おもちゃとお菓子の甘い関係―グリコのおもちゃ展―	21
長谷川重隆のハッポー芸術展Ⅱ	25
◆アンケート集計	26
◆わらべ館の今まで（おもちゃと遊び関連）ギャラリー童夢展示履歴	28

本書は、わらべ館3階の「ギャラリー童夢」という展示スペースで、平成21年度に開催された企画展と特別展の報告書である。展示の企画は、長嶺泉子（調査・展示係専門員兼係長）が担当し、解説の確認、展示の補助は、川崎香苗同係専門員、平緒佐和同係専門員、山本繭子同係主幹、大沢理世同係職員が行った。報告書の作成は、長嶺が担当、川崎、平緒、山本、大沢が補足した。

《展示資料口絵》

◆団樂のカード&ボードゲーム



「日露陸戦むさし」  
広げると裏がゲーム盤になる

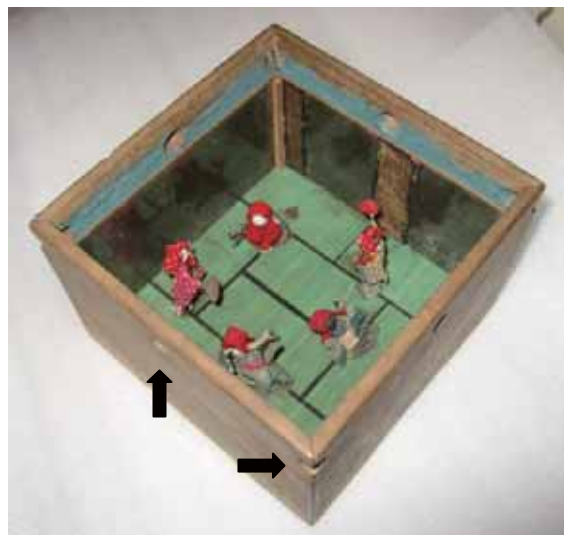


「ニコピンかるた」  
葛原しげる作、武井武雄画

◆しかけのおもちゃ



「振り子人形 鋸」  
前後に振れるタイプ



「のぞきからくり」  
矢印の穴からのぞくと、壁面のガラスに映った部屋の中が、さらに奥行きを感じさせる

◆平成 20 年度新収蔵資料展



『廃物を利用して子供にも出来る玩具の作り方』  
(右：外箱、左：表紙)



「かっぱのへ」  
幻燈の種ガラス

◆ようこそ！寅の穴—干支の郷土玩具展



「腰高虎」三春張子



「和藤内」大阪張子



「虎加藤」常石張子

◆おかしとおもちゃの甘い関係ーグリコのおもちゃ展



「きせかえキューピー」



「スケーター」



「スキーヤー」



「まほうばこ」

安引氏旧蔵資料

◆長谷川重隆のハッピー芸術展Ⅱ



「四連羽子板」



「蹴鞠」



「蹴鞠」

◆孫への贈りもの～木のおもちゃと押し花～前田俊美・増美二人展



「サイドカー」(左)「プロペラ機」

「揺」(左)、「麗」



企画展のポスター

だんらん  
**団楽の**

**カード & ボードゲーム**

江戸時代の絵巻六に昭和の家庭を合わせ、海外のボードゲームも登場します。

3月19日(木)～6月16日(火)

ゲーム・サンデー  
展示期間中の日曜日は、アナログゲームが楽しめる！  
とき 11:00～12:00  
ところ 1階 企画展示室  
内容・場内容が変わることもあります。

休館日 4月15日、5月20日(第3水曜日)  
9:00～17:00(入館受付16:30)  
わらべ館 3階 ギャラリー童夢  
一般:500円 中高生:障がい者・要介護者・介護者:無料  
わらべ館 調査・展示係 0857-22-7070

しかけの  
めくるめく しかけの おもしろさ

**おもちゃ**

6月18日(土)～9月15日(火)  
9:00～17:00(入館16:30まで) 休館日7/15(土)  
わらべ館 3階 ギャラリー童夢

ギャラリートーク「おもちゃのしかけ」  
6月21日(日)、7月20日(土)、8月23日(日)  
13:30～14:00  
わらべ館 調査・展示係 電話 0857-22-7070

ようこそ! どのあな  
**寅の穴**

わらべ館 干支の郷土玩具展

平成21年  
12月17日(木)～3月16日(火)  
※期間中の休館日 12月29日～1月1日、1月20日(水)、2月17日(木)  
わらべ館 3階「ギャラリー童夢」  
入館料:一般:500円、高校生以下・障がい者・要介護者とその介護者は無料  
お問い合わせ わらべ館 調査・展示係 ☎0857-22-7070

新収蔵資料展  
わらべ館平成20年度

平成21年  
9月17日(木)～12月15日(火)  
わらべ館 3階 ギャラリー童夢  
入館料:一般:500円、高校生以下・障がい者・要介護者とその介護者:無料  
わらべ館 調査・展示係 ☎0857-22-7070

特別展のポスター

孫へのおくりもの♪  
**木のおもちゃ**  
と押し花

前田俊美・増美 二人展

平成21年  
7月1日(水)～14日(火) **入場無料**  
わらべ館 1階 企画展示室  
お問い合わせ わらべ館 調査・展示係 ☎0857-22-7070

**おもちゃとお菓子の**  
**甘い関係**  
グリコのおもちゃ展

平成21年9月17日(木)～10月4日(日)  
わらべ館 1階 企画展示室 9:00～17:00 **入場無料**

関連イベント  
「おもちゃのまちをつくらう!」紙や紙ねんどでまちづくり! キット代100円  
9/17(木)～23(水) 14:00～15:00(整理券13:00発行)(各日20名)

協力:江崎グリコ株式会社、宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO (お餅やせんべい)  
わらべ館 調査・展示係 ☎0857-22-7070 島根市南町3丁目2-0-2

長谷川重隆の  
**ハッピー芸術展Ⅱ**

危殆スチロールの  
おもちゃ世界

平成21年  
11月1日(日)～11月15日(日) 9:00～17:00  
わらべ館 1階 企画展示室 入場無料  
わらべ館 調査・展示係 ☎0857-22-7070

## 「団樂のカード&ボードゲーム」

期日：平成21年3月19日（木）～6月16日（火）

会場：ギャラリー童夢

### 【開催趣旨】

近年「ドイツゲーム」という名称で、欧米のみならず日本でも次第に人気を博しているカードゲームやボードゲーム。その原型ともいべき世界のアナログゲーム※の中から、日本の絵双六やカルタをはじめ、世界各地で遊ばれるゲームを展示し、ルールの類似性やデザインの地域性などを紹介する。併せて優れたコミュニケーションツールとしてのアナログゲームの魅力を体験しながら理解する機会とする。



※アナログゲーム…TVモニターや液晶画面などを用いないカードゲームやボードゲームのこと。カルタや双六、花札、将棋、野球盤、人生ゲーム、モノポリーなど。

### 【展示資料一覧】

	名称	国	年代		名称	国	年代
1	訓蒙図彙（きんもうざい）	日本	江戸時代	21	うんすんカルタ	日本	平成3年
2	盤双六	日本	江戸時代	22	幕末月旦札	日本	平成20年
3	伊万里焼将棋駒	日本	江戸時代	23	アウトゲーム	日本	平成20年
4	中将棋の駒	日本	江戸時代	24	まんがあそび	日本	不明
5	貝覆い	日本	江戸時代	25	三用盤	日本	不明
6	しんけん工夫双六	日本	江戸時代	26	スクラブル	日本	不明
7	新案家族合わせ	日本	明治39年	27	水道管ゲーム	アメリカ	1980年代
8	日露陸戦むさし	日本	明治時代	28	ソリナール	ケニア	1980年代
9	活動写真双六	日本	大正10年	29	アフレゲーム	ブルキナファソ	1980年代
10	ニコピンカルタ	日本	昭和11年	30	ナインメンズモリス	イギリス	1980年代
11	南洋風物見学双六	日本	昭和17年	31	ロッティエノ	ドイツ	1980年代
12	新家族合わせ	日本	昭和初期？	32	オリジナル・メモリー	ドイツ	1980年代
13	ステーション汽車合わせ	日本	昭和初期？	33	バゲッジ クレーム	ドイツ	1980年代
14	HQ式野球ゲーム	日本	昭和17年	34	コンタクトゲーム	ドイツ	1980年代
15	クリちゃんカルタ	日本	昭和34年	35	アップ・ザ・リバー	ドイツ	1980年代
16	紋合わせ	日本	昭和30年代	36	スコットランドヤード	ドイツ	1980年代
17	デラックス新行軍	日本	昭和30年代	37	果樹園ゲーム	ドイツ	1990年代
18	野球カルタ	日本	昭和30年代	38	ベビーボードゲーム	ドイツ	1990年代
19	15ゲーム	日本	昭和30年代	39	ハリガリ	ドイツ	2008年
20	ダイヤモンドゲーム	日本	昭和30年代？	40	チェス	スイス	1995年

	名称	国	年代		名称	国	年代
41	フィンガー5かるた	日本	昭和40年代	45	リバーシー	ドイツ	1995年
42	日本旅行ゲーム	日本	昭和50年代	46	バックギャモン	ボリビア	1980年代
43	生き残り頭脳ゲーム	日本	昭和50年代	47	バーグチャル※	ネパール	2008年
44	サインはV!絵合わせ	日本	昭和50年代	48	ユッノリ※	韓国	2008年

※は個人蔵。その他はわらべ館所蔵（1980年代以降の資料は、購入年代）

【展示資料ピックアップ】（カッコ内の数字は、一覧表の番号）

・『訓蒙図彙』(1)

寛文16年（1666）、京の朱子学者、中村惕斎（1629～1702）が編纂した日本初の百科図鑑で、その中で将棋や碁、盤双六など当時の代表的な遊具が紹介されている。

・盤双六(2)

「すごろく」とは言え、絵双六とはまったく異なり、正倉院の宝物にも残る、古代から遊ばれていた盤上遊戯。賭け事にも用いられたため、たびたび禁令が出された。バックギャモンと類似している。



盤双六

・中将棋の駒(4)

現在の将棋は、40駒、81枞目だが、かつては駒、枞目、ともに多い大将棋や中将棋も楽しまれていた。中世に大将棋から派生した中将棋には、小将棋には無い「麒麟」「獅子」等の駒を含め、92駒、144枞もあった。



中将棋の駒

戦前までは嗜む人もいたようである。

・新案家族合わせ(7)

カードを全部配り、指名した人から自分の欲しい家族のカードを集めて総得点数を競うゲーム。家族の名前は戸主の職業に由来する駄洒落が多く、医者の子なら「見立正（みたてただし）」。右図は「八百屋の南瓜助（かぼすけ）さん」一家。



家族合せ

・日露陸戦むさし(8)

一個の「武蔵」(親駒)を複数の捕り手(子駒)が捕まえるか、逆に討たれるかで勝負する十六武蔵(じゅうろくむさし)という伝統ゲームを日露戦争の状況に置き換えたもの(外装は口絵参照)。



外装の裏側は盤

・ニコピンカルタ(10)

「ニコピン先生」こと葛原しげる(童謡作家。「夕日」を作詞)が唱えた「ニコニコピンピン」元気な子どものカルタ、という意味。童画家武井武雄が描くニコピンたちがカードの中で生き生きしている(口絵参照)。

・ダイヤモンドゲーム(20)

参加者3人が、自分の色のピンを早くもう一つの陣地に運ぶゲーム。世界各地で遊ばれており、「チャイニーズ・チェッカー」という名称が一般的。



ダイヤモンドゲーム



・幕末月旦札 (22)

幕末の53人が描かれたカードゲームで、役を作って点数を積み重ねる遊び。たとえば、「徳川家定」と「篤姫」で「夫婦」(3点)。「西郷隆盛」「大久保利通」「木戸孝允」で「維新の三傑」(15点)などと、幕末に詳しい歴史ファンほどいろいろな役が作れる。



幕末月旦札

・アワレゲーム (29)

東南アジアからアフリカまで広く伝わる盤上遊戯だが、世界の多くのゲームが分類される、競争、包囲、戦争、配列ゲームの4タイプとは異なる珍しい形式の遊び。マンカラ、オワレ、パパンチョンカ、オーバルフゴンディなど、国々で様々な呼び名がある。



ブルキナファソの  
折りたたみ型

・スコットランドヤード (36)

1990年代から世界的な人気となったドイツゲームの中でも、1983年に発売されて以来人気の高いゲーム。怪盗Xとロンドン警視庁との駆け引きを想定、視線隠しの小道具なども、おもしろさを倍増させている。ボードの美しさにも人気がある。



スコットランドヤード

・ハリガリ (39)

チャイムをチンチン鳴らすごとに、白熱してくるゲーム。出されたカードの果物の合計数が5になると、チャイムを鳴らして出ているカードを総取りする。エクストリーム版は、数種類の果物が一枚のカードに混ざっているため、さらに集中力が要求される。Jr.版は、笑った顔と困った顔のピエロが9色あり、表情を見逃して引っかかかってしまうことが多い。

・ユッノリ (ユンノリ) (48)

2チームに分かれて対戦する韓国のボードゲーム。4本の「ユッ」を投げて表裏の数を点数化し、「マル」(駒)を進めるが、相手を振り出しに戻したり、近道したりと駆け引きが楽しい。盤上に地名が載せられていることもある。

【アナログゲームの魅力】

ここ20年ほどの間に、「ドイツゲーム」と称されるアナログゲームが、世界的な流行を見せ、日本国内でもじわじわと人気を上げている。その「ドイツゲーム」とは、狭義には下記のような条件を満たすものである。

1. 現代に考案されたゲーム。
2. ドイツ語圏人が考案したゲーム。
3. ドイツ語圏メーカーが発売しているゲーム。(「ボードゲームランド」ホームページより)

ドイツ語圏のゲームでも、日本国内で販売されているものは、日本語に翻訳されたルールのプリントが同封されている。国内でも各地で愛好家の団体が結成され、大会が開かれたり、新しいゲームを評価したりと、活発な動きが見られる。毎年、その1年間に世に出たボードゲームの中から大賞を決める組織もあり、大人と子どもが同時に楽しめるゲームとして、ますます認知度が高まっている。

一般的に、ルールさえ理解すれば、世代を問わず、言語の違いも超えて、見知らぬ同士で駆け引きや協力をしながら楽しめるのが、カード&ボードゲームの魅力である。

### 【関連イベント】

「ゲーム☆サンデー」（展示期間中の毎日曜日、会場：1階企画展示室・2階ライブラリー）

3ヶ月間の期間中、日曜日の午後の約1時間を充て、「ゲーム☆サンデー」というボードゲームを楽しむイベントを開催した。人気の「ハリガリ」は毎回定番ゲームで、それ以外には、未就学児や小学校低学年が多い当館の利用者を考慮して、なるべくルールが簡単で、視覚的に訴えるわかりやすいボードやカードのアナログゲームを選んだ。

期間を通して感じたのは、この年頃の特徴かもしれないが、早く結果が出るゲームの方が人気があるということ。先述の「ハリガリ」も、勝敗の行方は最後まで持ち越すが、チャイムを鳴らしてゲームが止まるごとにピークを迎えるところが、飽きさせない理由のようだ。だいたい、10分から15分くらいまでに決着がつくゲームが好まれていて、韓国の双六「ユッノリ」は、最初おもしろがっていた小学生も、相手チームが振り出しに戻したりするとつまらなくなり、ゲームを途中で放棄してしまった。しかし、期間中に何度か遊んだり、家庭でボードゲームに親しんだりしている子どもたちは、ストーリー性のあるゲームにも集中して取り組んでいたようだ。

また、ドイツゲームの特長として挙げたように、見知らぬ同士が同じゲームを楽しむ場面に何度か出会い、ドイツゲームがコミュニケーションの道具として効果的であることを認識できた。



2枚のカードの中から、同じ絵を早く見つけるゲームでは、大人と子どもが競争できる。



人気の「鶏の尻尾」

### 【参考文献】

- 『日本伝統ゲーム大観』高橋浩徳著 大阪商業大学アミューズメント産業研究所 2008年
- 『ものと人間の文化史 29 盤上遊戯』増川宏一著 法政大学出版局 1993年（第2版）
- 『ものと人間の文化史 79 すごろく I・II』増川宏一著 法政大学出版局 1995年
- 『ものと人間の文化史 94 合わせもの』増川宏一著 法政大学出版局 2000年
- 『ボードゲーム天国』01号 オフィス新大陸編著 株式会社雄山閣 2003年
- 『双六遊美』山本正勝著 株式会社芸艸堂 1988年
- 『おもちゃの博物館』10 遊戯具 多田敏捷編 株式会社京都書院 1992年
- 『国際理解に役立つ世界の遊び アジアの遊び』2 大貫美佐子監修 ポプラ社 1998年

## 「しかけのおもちゃ」

期日：平成21年6月18日（木）～9月15日（火）

会場：ギャラリー童夢

### 【開催趣旨】

歯車やばねがひとつだけ仕込まれているような簡単なしかけでも、回ったり飛んだりおもしろい動きをするおもちゃ。今回の企画展では、伝統的なからくり人形ほど精巧でなくても、いろいろなしかけで動き出すおもちゃの中から、日本の郷土玩具や昭和20～30年代のセルロイドやブリキ製、海外の木製玩具を中心に紹介する。



### 【展示資料一覧】

	資料名	国／制作者		資料名	国／制作者
1	とんだりはねたり「助六」	東京	24	シザークランク振り子の騎士	ドイツ
2	ずぼんぼ「ウマ」	東京	25	登り人形「山登り」	ドイツ
3	ずぼんぼ「トラ」	東京	26	振り子人形「鋸」	ドイツ
4	からくり狸々	東京	27	プッシュアップ「チャオ」	イタリア
5	犬山でんでん太鼓	愛知	28	羊の反逆	イギリス
6	そば喰い	長野	29	怒り猫	イギリス
7	神戸人形	兵庫	30	CAM-10	日本
8	猿弾き	三重	31	餅つきウサギ独楽	日本／広井政昭
9	板角力	熊本／桑原健次郎	32	桃太郎独楽	日本／広井政昭
10	おばけの金太	熊本／厚賀伸彦	33	水飲み鳥	日本／広井政昭
11	指ハブ※	沖縄	34	パタパタバードビッグ	中国
12	アガール（竹トンボ）	日本	35	ノックマン※	日本／明和電機
13	ピョンピョン猫	日本	36	ポロロン	日本／明和電機
14	のぞきからくり	日本	37	茶運び人形	日本
15	サーキュレイティングカー	日本	38	からくり機素「ピン面歯車1」	日本／若林孝典
16	スペシャルエキस्प्रेसライン	日本	39	からくり機素「遊星ギア2」	日本／若林孝典
17	孔雀	日本	40	からくり機素「摩擦車」	日本／若林孝典
18	鞠つき人形	日本	41	からくり機素「カム1」	日本／若林孝典
19	小鳥かご	日本	42	からくり機素「フライホイール」	日本／若林孝典
20	水太鼓福助	日本	43	からくり機素「クランク1」	日本／若林孝典
21	ブランコ人形「ボクノトモダチ」	日本	44	からくり機素「クイックリターン1」	日本／若林孝典
22	キャンドルスタンド	ドイツ	45	からくり機素「クランク複式機構」	日本／若林孝典
23	胡桃割り人形「ハッキガム近衛兵」	ドイツ	46	からくり機素「磁石の機構」	日本／若林孝典

※印は個人蔵。その他はわらべ館所蔵

【展示資料ピックアップ】(カッコ内の数字は、一覧表の番号)

・とんだりはねたり (1)

江戸時代の文献「江都二色」にも登場する「とんだりはねたり」は、糸と竹と紙だけでできた、簡単なつくりのおもちゃ。糸を土台の竹に巻きつけて、それに挟み込んだ板をばねに利用することで、一回転するしかけがある。竹の土台には張子の人形が乗せられるが、虚無僧姿のものは、本体が飛ぶと同時に、かぶっていた笠も吹っ飛ぶ演出が楽しい。



木片の向きにも注目

・指ハブ (11)

沖縄や奄美諸島のお土産としても人気のあるおもちゃ「指ハブ」。指を入れるのはスムーズだが、その指を抜こうとすると、アダンの葉で編まれたハブが摩擦を起こして絞めつけ、なかなか抜けないしかけがある。

・アガール (12)

竹トンボの羽根だけが飛ぶタイプと同じで、軸に巻きつけた糸を勢いよく引っ張ると、羽根が5mほど飛んでいく。引っ張った糸は反対向きに巻きつくので、次は先程と反対側の軸の先端に羽根を取り付けて、すぐに羽根を飛ばすことができる。お子様ランチに付くプロペラのおもちゃも似た仕組みを持つ。



・スペシャルエクスプレスライン (16)

ブリキの乗り物おもちゃには、車輪を床に軽く押しつけながら前に走らせると、手を離してもしばらく進み続ける「フリクション (摩擦)」というしかけが数多く採用されている。

・ブランコ人形「ボクノトモダチ」(21)

ゼンマイを巻くと、勢いよくブランコが前後に揺れ動く。これと似たおもちゃに「器械体操」といって鉄棒で大車輪をするものもあり、どちらも昭和20～30年代初頭、アメリカに向けて輸出された日本製セルロイドおもちゃの代表格として知られている。

・振り子人形「鋸 (のこぎり)」(26)

ドイツのやじろべえはおもりが一つのタイプで、日本のものとは違い前後にゆらゆらと動く(口絵参照)。この前後の動きは馬がギャロップする様子にぴったりで、騎士のタイプもよく知られている。

・のぞきからくり (参考資料) (14)

「からくり」とあるが、動きを楽しむものではない。穴から見た箱の中が、ガラスの壁面にあり得ない奥行きを映しだす目だましの「しかけ」がある(口絵参照)。

【しかけの提示】

今回の展示資料は、そのテーマどおり、しかけが動いているところを提示する必要があった。ギャラリートークでは、資料を数点、実際に動かしてみせたが、それ以外の機会にもおもちゃの動きが見られるよう、資料の中から23点を抜き出し、動いている状態を撮影したDVDを展示会場の横で上映した。

撮影では、古いおもちゃのぜんまいが動かなかったり、安定感が



なく倒れたり、てこずるものもあった。中でも、ろうそくの炎の熱で回るキャンドルスタンド（クリスマスピラミッド）は注意を要し、うまく羽根が回るまで、何度も試行を繰り返した。

### 【しかけ・動きの元】

#### ・ばね、ぜんまいばね

エネルギーをため込む装置で元に戻ろうとする力を利用する。ぜんまいばねはバネ鋼の板を渦巻き状に巻いてあり、渦巻きばねとも呼ばれる。おもちゃの中でもぜんまいしかけはブリキ製に多い。

#### ・歯車

動力を伝える装置。歯の数が違う歯車同士をかみあわせて、減速、増速させることができる。これもブリキ製のおもちゃに多く内蔵されている。

#### ・クランク

自転車のペダルや手回し式の鉛筆削りなど、回転運動を直線運動に変える、もしくはその逆を作り出す装置。おもちゃでは、人形の手足の上げ下げなどに利用される。

#### ・カム

運動の方向を変えるもの。卵型のような、円ではない板を軸にはめて回転すると、その板の形に沿った動きが生まれる。



カムを利用

#### ・てこ

小さな力を大きな力に変える、逆に力を小さく伝える装置。また、力の及ぶ向きを変えることができる単純かつ重要な装置として、ハサミや栓抜き、ホッチキスなど日常生活のいろいろな道具で活躍している。くるみ割り人形のあごが一例。

#### ・遠心力

カーブを走る電車の中の人、外側に引っ張られるような感覚のことで、慣性力的一种。軸に巻きつけたひもを引っ張ると、枠が開いたり閉じたりするしかけゴマ（桃太郎独楽）もこの力を利用している。

### 【関連イベント】

「江戸のおもちゃをつくろう」

内容：江戸時代から伝わるおもちゃ「とんだりはねたり」（竹・土人形）や「ずぼんぼ」（紙）の工作を通して、おもちゃの動く仕組みを理解し、遊んでみる。

期日：7月20日（月・祝）14:30～ 場所：1階 企画展示室

対象：5歳以上（未就学児は要保護者同伴） 参加無料

#### ・とんだりはねたり

展示資料ピックアップで紹介したとおり、本来は竹の上に張子の人形を載せるが、今回は学校教材でも用いられる軽い樹脂粘土で、カエルとウサギの二体をあらかじめ作っておき、参加者には着色から始められるようにした。その他の材料、割り竹と木片、タコ糸も、館で同じサイズを準備しておいた。



工程は、まず人形をポスターカラーで色づけした後、割った竹の中ほどにタコ糸をきつく6回ほど巻きつける。人形をかまぼこ型の割り竹の上に接着剤で固定し、木

片を裏側のタコ糸に挟み込む。遊ぶ時には、2~3回タコ糸を絞るようにその木片を回すと、木片が戻ろうとする力で、飛び上がりながら一回転する。今回は、竹の裏に粘着物を貼り付けなかったが、きりきりとねじった木片の端に粘着物を付けた場合は、少し間をおいてから飛び上がるので、ゆかいな驚き生まれる。

・ずぼんぼ

これも、とんだりはねたりと同じ江戸時代から続くおもちゃで、和紙と隅田川のシジミに恵まれた浅草でよく売られていたという。材料や作業工程については、企画展「ようこそ！寅の穴」の関連イベントで後述する。

【参考文献】

『いま・むかしおもちゃ大博覧会』第4部 からくりワンダーランド（からくりダイジェスト）

兵庫県立歴史博物館 河出書房新社 2004年

『からくり玩具をつくろう』鎌田道隆・安田真紀子 河出出版研究所（江戸時代のおもちゃ）

『浮世絵に見る江戸の子どもたち』くもん子ども研究所編「しかけ玩具の登場」

『創作玩具』春日明夫 日本文教出版（玩具の種類、分類）

『玩具館 遊びの百科全書4』澁澤龍彦・矢牧健太郎 河出書房新社 昭和62年

『からくり 遊びの百科全書1』立川昭二・高柳篤 河出書房新社 昭和62年

『おもちゃ博物館』ブリキ玩具I・II 多田敏捷編 京都書院 1992年

『おもちゃの科学』1 戸田盛和 日本評論社 1995年



『江都二色』の  
からくり猩々（左）と板角力

「平成 20 年度新収蔵資料展」

期日：平成 21 年 9 月 17 日（木）～12 月 15 日（火）

会場：ギャラリー童夢

【開催趣旨】

当館のおもちゃ資料収集は、購入と寄贈で成り立っている。年間を通して、予定している企画展に関連する資料や、当館の収集方針に基づく資料を収集しているが、その中には、展示するまでに期間を要する資料もある。今年度より、そうした資料から数点をピックアップして展示し、当館所蔵のおもちゃ資料をできるだけ来館者の目に触れる機会とする。



【展示資料一覧】 種類… 1 人形、2 刷物、3 光学・視覚玩具、4 郷土玩具、5 関連書籍、6 その他

種類	資料名	制作年	制作地	備考・作家
1	市松人形	昭和 7 年	日本	寄贈
1	花見人形	明治?	日本	寄贈
2	まほう絵本 (幼年倶楽部付録)	昭和 6 年	日本	寄贈
2	高級ハリエ「日本唱歌集」	昭和 30 年代	日本	
2	武者修行英勇寿語禄	江戸時代	日本	
2	少年軍艦双六	明治 38 年	日本	川端龍子画
2	鉄道競争双六	不明	日本	
2	団子串助かるた	不明	日本	
3	ビューマスター	不明	アメリカ	sawyers
3	ビューマスター用カセットフィルム	不明	アメリカ	sawyers
3	万華鏡	昭和 8 年	日本	小野株式会社
3	ガラス種板「かっぱのへ」「頼政」	不明	日本	かっぱ 6、頼政 2
3	カセット 8 ムービー「宇宙怪獣キングギドラ」	昭和 40 年代	日本	野村トニー
3	玩具フィルム「ほらふき男爵の冒険」	昭和 30 年代	日本	木下公男作画
3	玩具フィルム「灰坊太郎」	昭和 30 年代	日本	藤澤衛彦監修
3	玩具フィルム「赤胴鈴之助鬼面党退治」	昭和 30 年代	日本	
3	活動写真機兼幻灯機	昭和 2 年	日本	ハグルマ印 Y. N. & CO.
3	スライド幻灯機	昭和 38 年	日本	少年ブック 5 月号付録
4	祝い鯛 (静岡張子)	平成 20 年	日本 静岡県	沢屋
4	薩摩面かぶり (猿)	平成 12 年	日本 鹿児島県	鹿島たかし
4	牛乗りお石 (六原張子)	平成 20 年	日本 秋田県	
4	小槌乗り牛 (中湯川土人形)	平成 20 年	日本 福島県	
4	牛乗り天神 (三春張子)	平成 20 年	日本 福島県	
4	牛 (きびがら細工)	平成 20 年	日本 栃木県	
4	御幣牛 (芝原土人形)	平成 20 年	日本 千葉県	
4	俵牛 (伏見土人形)	平成 20 年	日本 京都府	
4	立牛乗り天神 (三次土人形)	平成 20 年	日本 広島県	
4	牛土鈴 (能古見土人形)	平成 20 年	日本 佐賀県	
4	桃牛 (大) (吉備津土人形)	平成 20 年	日本 岡山県	東隆志
4	牛グァー (琉球張子)	平成 20 年	日本 沖縄県	豊永盛人
4	独楽 (むぎわら細工)	平成 20 年	日本 兵庫県	かみや民芸店

種類	資料名	制作年	制作地	備考・作家
5	幻燈	昭和 26 年	日本	波多野完治監修
5	少年手工ブック	昭和 12 年	日本	少年倶楽部 5 月号付録
5	絵本少年画帖汽車電車乗物	大正 1 年	日本	網島亀吉作画
5	お人形あそび	昭和 30 年代	日本	ひまわり 3 月号付録
5	玩具の作り方	大正 10 年	日本	森規矩郎著
5	玩具手工と図画	大正 13 年	日本	藤五代策・山本鼎著
5	玩具の選び方と与え方	大正 15 年	日本	東京市社会教育課
5	パズル玩具 作り方遊び方	昭和 8 年	日本	渡邊軍治著
5	研究と製作 玩具工芸	昭和 8 年	日本	西川友武著
5	自然芸術 趣味の手芸玩具	昭和 6 年	日本	膳真規子著
6	アウトゲーム (トランプ)	平成 20 年	日本 静岡県	花菱工業
6	オサイク マメサイク	昭和 30 年代	日本	
6	教育ゴム印	昭和 30 年代	日本	
6	アレンジ	昭和 30 年代	日本	
6	ネンドあそび	昭和 30 年代	日本	
6	高級キップ遊び	昭和 30 年代	日本	
6	ゴム印自由画	昭和 30 年代	日本	
6	鬼太郎浮輪	昭和 50 年代?	日本	
6	ころころうさぎ	平成 21 年	日本 鳥取県	岡田卓巳
6	アパトサウルス	平成 20 年	日本 神奈川県	山田勝久

### 【展示資料ピックアップ】

#### ◆人形

昭和 6 年 (1931) に作られた 1 m 近い市松人形を市民より寄贈された。寄贈者の初節句に、おばたちが京都から送ってきてくれた、というもので、髪の毛が不揃いなこと以外は状態が良く、着物もそれぞれ、初節句の宮参り着や母親の花嫁衣装の半衿からこしらえた、ほぼ当時の物だそう。昭和 2 年 (1927) に到来した「青い目の人形」の答礼として、日本からアメリカに送られた「ミス〇〇 (県名)」と同じ時代を知る人形である。



#### ◆おもちゃ関連書籍

- ・『パズル玩具 作り方遊び方 玩具叢書第四篇』(渡邊軍治著 昭和 8 年 新泉社)

『玩具叢書』は、別に西沢笛畝が同年代に著したシリーズもあるが、こちらは、子どもを対象におもちゃの作り方と遊び方を説明した内容となっている。第四篇の他は、「光のおもちゃの作り方」(第二篇 山根省三著)「ゲーム玩具の作り方」(第五篇 山根省三・井上一男共著)など、市販の玩具が高価な時代に、さまざまな種類の玩具の作り方や遊び方を紹介している点で、実用性の高さが評価できる。

著者の渡邊氏は、童玩研究会の序によると、既に科学雑誌や著書等で知られた新進の研究者であり、児童の科学知識普及のための玩具開発に長けた人物と紹介されている。本書の特徴は、太郎君と節雄君の少年二人が、中学教師の叔父さんからいろいろなパズルの作り方と遊び方を習うという会話形式の進行。中には「強い日本の陸海軍」という副題を持つパズルなど、時局を意識したものも含まれている。

- ・『廃物を利用して子供にも出来る玩具の作り方』(森規矩郎著 大正 10 年 誠文堂)



家庭や小学校で廃物を利用した玩具が作れるように、また、市販されている高価な玩具だけでなく、一般家庭に玩具を普及させたいという目的に沿って、材料選びから工程、略図等を示した内容で、特に母親の工作を促す文言が第一章「私の期待」で示される。しかし単なる手引書ではなく、外国製の玩具の特徴や配色の理論なども含め、海外の文献を参考、引用しており、一読して簡単に作れる印象ではない。

著者は、モンテッソーリの教育法に則り、子どもの独創力を啓発するものに玩具を挙げ、本書に示す玩具を子どもや親が実際に作り、遊ぶことが、その一助になるとしている。

なお、外箱と表紙の装画が誰の手になるものかは不明だが、大正時代の童謡雑誌を思わせる、モダンなイラストである（口絵参照）。

・『自然芸術 趣味の手芸玩具(自然物応用による恩物)』（膳 眞規子著 昭和6年 大阪保育品製作所）

序や巻後で著者の知人が記すには、著者の膳氏は神戸において児童教育に携わる人物と思われ、姉の氏原銀子氏との共著で、昭和初期に幼児教育と手工芸関連の文章を発表している。

本書は、手芸玩具の中でも、特に「自然物」、たとえば梧桐（アオギリ）の実や数珠、松かさなどの実、あるいはイチヨウや松の葉などの植物を用いて、雛人形や動物、船を作る技術を数冊の著作で伝えている。郷土玩具のような凝ったわら細工もあるが、二枚貝を用いた内裏雛などは、小さな子どもも簡単に作れるようになっている。

・『研究と製作 玩具工藝』（西川友武著 昭和8年 四明社）

本書の巻頭には、著者が勧める玩具の製図が掲載されている。玩具の設計に携わる著者は、仙台市に設置されていた商工省（現在の経済産業省）工藝指導所の技師（刊行当時）で、後に意匠部長を勤め、第二次大戦後もインダストリアルデザインの分野で活躍した人物。おりしも、本書刊行の年には、パリで開催された「アルミニウム家具国際コンクール」第2部で1等を受賞している（『美しい椅子2』島崎信+東京・生活デザインミュージアム 2004年 榎文庫）。

これらの書籍は古書店にて購入した。本の中で紹介される工作や手芸は、今後、わらべ館での体験イベントのプログラムにも組み入れて、当時の作品例として展示も含めて開催してみたい。

◆光学・視覚玩具

・ガラス種板「かっぱのへ」6枚（口絵参照）、「頼政」2枚

古物商からセットで購入した。どちらも約50mm四方のガラス板で、絵は赤と青の二色で色づけされている。「かっぱのへ」は、物語仕立てになっており、想像するに、人間の魂が入っているという「尻小玉」を抜こうとして、返り討ちに遭う河童の姿かと思われる。幻燈で面白おかしく演じる様子が目に浮かぶ。また、「頼政」は2枚のみで、武者絵のように見えを切るポーズである。

◆その他

・鳥取に関係があるおもちゃ「ころころうさぎ」「鬼太郎浮輪」

鳥取のおもちゃ作家の作品も重要な収集対象で、このたび、岡田卓巳氏の木工おもちゃが加わった。鳥取県東部は神話「因幡の白兔」の舞台であり、うさぎはおもちゃに限らずいろいろな場面でモチーフとして登場している。

また、原作者の水木しげる氏が県西部の境港市出身ということで、「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」のおもちゃはできるだけ収集しており、昨年度は鬼太郎の浮輪を遊び道具として加えた。

「ようこそ！寅の穴」

期日：平成21年12月17日（木）～平成22年3月16日（火）

会場：ギャラリー童夢

【開催趣旨】

日本各地の虎をモチーフにした郷土玩具の中から、鳥取県内と主な産地の玩具を紹介するとともに、「和藤内（ていせいこう鄭成功）と虎」や「加藤清正と虎」、あるいは「ほうそう疱瘡除け」との関係など、虎にまつわるエピソード、虎と玩具の関係、虎の宗教性を説明した。日本に生息しないにもかかわらず深い関係を持つトラとヒトについて、郷土玩具を通じて興味を喚起する。

【展示資料一覧】

	資料名	材質	国名	製作者
1	虎（手捻り土人形）	土	青森県	福原栄次郎
2	虎土鈴（中山土人形）	土	秋田県	樋渡人形
3	虎ダルマ（六原張子）	紙	岩手県	さわはん工房
4	首振虎（仙台張子）	紙	宮城県	本郷だるま工房
5	虎のり唐子（相良人形）	土	山形県	相良隆
6	和藤内（相良人形）	土	山形県	相良隆
7	虎（笹野一刀彫）	木	山形県	米沢美術工芸研究社
8	腰高虎（大）（三春張子）	紙	福島県	橋本広司
9	腰高虎（小）（三春張子）	紙	福島県	橋本広司
10	小槌のり寅（中湯川土人形）	土	福島県	青柳守彦
11	福良雀のり寅（中湯川土人形）	土	福島県	青柳守彦
12	こらんしょ寅（青）（中湯川土人形）	土	福島県	青柳守彦
13	こらんしょ寅（赤）（中湯川土人形）	土	福島県	青柳守彦
14	首振とら（久の浜張子）	紙	福島県	
15	張子虎	紙	茨城県	
16	虎（大）（那珂湊張子）	紙	茨城県	飯田善司
17	首振とら（那珂湊張子）	紙	茨城県	飯田善司
18	出世虎（佐野土人形）	土	栃木県	相沢民芸
19	とら（大）（きびがら細工）	きびがら	栃木県	きびがら工房
20	虎（きびがら細工）	きびがら	栃木県	青木行雄
21	首振とら（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
22	ねまり虎（小）（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
23	座虎（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
24	横向虎（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
25	座り虎（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
26	豆虎（春日部張子）	紙	埼玉県	玩古庵
27	虎加藤（芝原土人形）	土	千葉県	千葉惣次
28	座り虎（芝原土人形）	土	千葉県	千葉惣次
29	四ツ立虎（芝原土人形）	土	千葉県	千葉惣次
30	とら車（佐原張子）	紙	千葉県	三浦屋
31	下総玩具首人形十二支	土	千葉県	
32	ずぼんぼ（虎）	紙	東京都	いせ辰
33	招き寅（オス）（江戸張子）	紙	東京都	いせ辰
34	招き寅（メス）（江戸張子）	紙	東京都	いせ辰
35	奴虎（黒）（江戸張子）	紙	東京都	いせ辰

	資料名	材質	国名	製作者
36	和藤内 (江戸張子)	紙	東京都	いせ辰
37	笹に寅 (江戸張子)	紙	東京都	いせ辰
38	臥トラ (復元) (今戸人形)	土	東京都	白井靖二郎
39	立トラ (復元) (今戸人形)	土	東京都	白井靖二郎
40	ダルマ寅 (今戸人形)	土	東京都	白井靖二郎
41	寅招福土鈴 (甲府土人形)	土	山梨県	民芸工房がくなん
42	首振虎 (清水張子)	紙	静岡県	堀尾市郎右衛門
43	首振とら (浜松張子)	紙	静岡県	二橋加代子
44	虎車 (浜松張子)	紙	静岡県	二橋加代子
45	寅 (乙川土人形)	土	愛知県	杉浦實
46	虎乗り加藤 (起土人形)	土	愛知県	
47	座り虎 (起土人形)	土	愛知県	
48	魔除虎 (金沢張子)	紙	石川県	中島めんや
49	とら起上り (金沢張子)	紙	石川県	中島めんや
50	国姓爺 (小幡土人形)	土	滋賀県	細居源悟
51	ミニ虎 (小幡土人形)	土	滋賀県	細居源悟
52	虎旦那 (小幡土人形)	土	滋賀県	細居源悟
53	豊干禅師 (伏見土人形)	土	京都府	丹嘉
54	四ツ立虎 (伏見土人形)	土	京都府	菱屋
55	とら (大阪張子)	紙	大阪府	峯商店
56	起き上がりとら (大阪張子)	紙	大阪府	峯商店
57	和藤内 (大阪張子)	紙	大阪府	入船堂
58	神農のとら (大)	紙	大阪府	楠田正男
59	神農虎 (張子)	紙	大阪府	
60	豆トラ (姫路張子)	紙	兵庫県	松尾隆
61	首振虎 (姫路張子)	紙	兵庫県	松尾隆
62	倉敷はりこ十二支	紙	岡山県	生水玩山
63	虎加藤 (常石張子)	紙	広島県	
64	虎 (山陰十二支) (大)	木	鳥取県	小椋屋
65	虎 (山陰十二支) (中)	木	鳥取県	小椋屋
66	虎 (山陰十二支) (小)	木	鳥取県	小椋屋
67	虎 (鳥取張子) (座り 大)	紙	鳥取県	柳屋
68	虎 (鳥取張子) (座り 小)	紙	鳥取県	柳屋
69	虎 (鳥取張子)	紙	鳥取県	柳屋
70	鳥取のえと (大)	木	鳥取県	信夫工芸
71	鳥取のえと (豆・白) 十二支揃い	木	鳥取県	信夫工芸
72	千支土鈴 (寅) (因州若桜焼)	土	鳥取県	大坪英治
73	尾ふり虎 (倉吉張子)	紙	鳥取県	備後屋
74	虎 (倉吉張子)	紙	鳥取県	備後屋
75	寅 (北条土人形)	土	鳥取県	加藤廉兵衛
76	虎 (出雲張子)	紙	島根県	高橋張子虎本舗
77	虎加藤 (長門張子)	紙	山口県	田中勉
78	首振虎 (高松張子)	紙	香川県	
79	九重の十二支人形	木	大分県	九重民芸
80	魔除とら鈴 (別府土人形)	土	大分県	豊泉堂
81	開運とら鈴 (別府土人形)	土	大分県	豊泉堂
82	虎鈴 (のごみ人形)	土	佐賀県	のごみ人形工房
83	寅 (木の葉人形)	土	熊本県	木葉窯
84	寅鈴 (大) (佐土原土人形)	土	宮崎県	陶月

	資料名	材質	国名	製作者
85	開運とら（佐土原土人形）	土	宮崎県	陶月
86	薩摩首人形（寅）	紙	鹿児島県	鹿島たかし
87	虎（沖縄張子）	紙	沖縄県	琉球玩具製作所こくら

【展示資料ピックアップ】（カッコ内の数字は、一覧表の番号）

- ・「腰高虎」三春張子（福島県）（8・9）

郡山市の旧三春藩領は、江戸時代から現在に至るまで張子の代表的産地として知られている。この四肢を踏ん張り、尻尾をうねらせ、横向きにかつと見得を切る様は、虎に対して人間が持っている一般的なイメージを再現したかのような分かりやすさである。当館では、男の子に人気が高かった。平成10年（1998）の年賀記念切手のモデルに採用されている（口絵参照）。

- ・「和藤内」相良土人形、江戸張子、大阪張子（山形県、東京都、大阪府）（6・36・57）

近松門左衛門の筆による人形芝居『国性爺合戦』※は、後に歌舞伎にもなり、大評判をとった。主人公の「和藤内」は、明の遺臣と日本女性の間で長崎平戸で生まれた実在の人物、鄭成功がモデルで、物語は、成長した和藤内が大陸に渡り、明朝復興のために大活躍するというもの。その見せ場の一つに、和藤内が竹やぶで猛虎と格闘し、伊勢大神宮の護符で手なずける場面が挙げられる。郷土玩具の世界でも、和藤内の衣装が色鮮やかに表現され、その勇ましさにあやかり、金太郎や桃太郎と同じく、五月五日の端午の節句に飾られることもある（口絵参照）。

※もともとの人名表記は「国姓爺」だが、近松は「性」の文字を用いた。

- ・「虎加藤」芝原土人形、起土人形、長門張子（千葉県、愛知県、山口県）（27・46・77）

史実には認められないものの、加藤清正の虎退治は、豊臣秀吉が朝鮮に侵攻した「文禄の役」における有名なエピソードの一つに挙げられ、その様子は、「和藤内」と同じく武勇のシンボルとして、郷土玩具の世界に残されている。武者姿の加藤清正は、長烏帽子と長槍で表現される（口絵参照）。

- ・「神農虎」大阪張子（大阪府）（58・59）

大阪市中央区の道修町は、古くから製薬会社が並ぶ地域で、その一角にある「少彦名神社」は薬の神「少彦名命」とともに医薬の祖「神農」を祭っており、別名「神農さん」として親しまれている。

江戸末期、大阪でも不治の病とされた「コロリ」（コレラ＝虎列刺）が大流行すると、道修町の薬種商は「虎頭殺鬼雄黄円」（「ことうさっきゆうおうえん」と読むのか）という丸薬を配布した。大阪張子の虎は以前からつくられていたが、厄病除けとして張子の「神農の虎」が笹に結び付けて売り出されたのはその後という。なお、神社が授与する虎の腹には「薬」の朱印が押し、笹につける赤いお札には「祈願家内安全無病息災」の文字が入る。

「少彦名神社」では、毎年11月22・23日に「神農祭」が開かれ、現在も健康を願う人々がこの張子の虎を求めていく。

- ・「虎」出雲張子（島根県）（76）

昭和37年（1962）の年賀記念切手のモデルに選ばれた出雲今市の産。左右にピンと張ったひげと、三角形に近い真っ赤な耳が特徴的である。もともと白天神など土人形も作っていた高橋家では、明治10年（1877）から4代目の高橋熊市が虎の張子を作りはじめ、現在7代目の高橋荘四郎氏が高橋張子虎本舗としてその伝統を受け継いでいる。

### 【張子の虎】

虎の張子にとっては、ありがたくないことわざの例に、「あいつは『張子の虎』だ」などと言う。元は「うなずいてばかりいる人」という意味だったが、後に「虚勢を張っている人」という解釈も加わった。それで意味が通じるところに、郷土玩具としての知名度の高さが窺い知れる。

張子は木型の上に何枚も紙を張り合わせ、乾燥後に型を取り、また張り合わせて彩色する「張り抜（貫）き」という方法と、土人形のように型の中に紙を張り合わせていく方法があり、多くの紙を必要とするので、反故が出やすい都市部や紙の生産地で発展した玩具である。鳥取は因州和紙の里であり、張子や紙玩具の産地としても知られている。

### 【関連企画】

「昔のトラをつくろう」

内容：「ずぼんぼ」をつくり、完成後に団扇で飛ばして遊ぶ。

期日：平成22年1月11日（月・祝）14:00～15:00 場所：わらべ館 1階 企画展示室

対象：15名 参加無料

「ずぼんぼ」は江戸時代から伝わるおもちゃで、シジミが採れる隅田川に近い浅草ではよく売られていた。今回、地元産の素材を用いようと、青谷や佐治など鳥取市内で作られる「因州和紙」と同じく市内の用水路で採れたシジミで工作することにした。

因州和紙は、あらかじめ型紙を印刷するために、A4版でプリンターに対応する加工を施したものを購入し、シジミは、山陰海岸学習館の竹林慶謹専門員のご協力を得て採集した。当初、このシジミには、スーパーなどで売られる食用の中から小さいものを選びわけようとしたが、最小でも団扇であおいで飛ばすには大きすぎたため、貝類学が専門の竹林氏に相談し、市内の用水路で採集するに至った。それらは「台湾シジミ」という外来種とのことで、見た目は若干色が薄く、茶色に近いが、ずぼんぼの足にはちょうど良いサイズの必要数を簡単に採集することができた。



参加者は、ほとんどが親子連れだったので、協力しながら工作を進めた。型紙を切り、模様や顔を描き、張り合わせる工程を、早い人は30分ほどで終わらせると、早速団扇を使ってあおぐ光景が見られた。子どもがあおいで浮かせるのは、少し難しそうだったが、時には3、4秒間滞空時間を保つ虎もいた。

### 【参考文献】

『郷土玩具辞典』新装普及版 斎藤良輔編 東京堂出版 1997年

『「郷土玩具」で知る日本人の暮らしと心』2 健康を願う郷土玩具 株式会社くもん出版 2005年

『全国郷土玩具ガイド』1～4 畑野栄三著 婦女界出版社 1992～93年

『浪花おもちゃ風土記』奥村寛純著 村田書店 1987年

## 《特別展》

平成21年度は、ギャラリー童夢で年4回開催する企画展の他に、1階の企画展示室を会場にして、特別展を3回開催した。

### 特別展1

「孫への贈りもの～木のおもちゃと押し花～前田俊美・増美二人展」

期間：平成21年7月1日（水）～7月14日（火）

会場：1階企画展示室

#### 【開催趣旨】

鳥取市在住の前田俊美氏の木のおもちゃと夫人の増美氏の押し花作品を展示。俊美氏は趣味の木工技術をおもちゃづくりに用い、これまでに乗り物や車輪がついた動物を数多く制作している。増美氏は、蘭を中心にした押し花作品を出展し、趣味の世界での表現の可能性、奥深さを来館者に楽しんでいただく（口絵参照）。

#### 【展示風景】



体験型のコーナーでは、車を転がしたり、押ししたりして遊べるよう傾斜を設けた。



左からトラクター、鳥の親子2題

## 特別展 2

「おもちゃとお菓子の甘い関係ーグリコのおもちゃ展ー」

期間：平成 21 年 9 月 17 日（木）～10 月 4 日（日）

会場：1 階 企画展示室

### 【開催趣旨】

「食玩」と称されるお菓子の付随するおもちゃは、現在では子どもが遊ぶ範疇を超えた収集の対象として、社会的にも認知されている。今回の企画では、その先頭を切ってお菓子とおもちゃを結び付け、長きにわたって食玩の世界をリードしてきた「グリコ」のおもちゃを年代別、テーマ別に展示し、社会背景や素材の発展をみるとともに、開発にまつわるエピソード等も交え、グリコのおもちゃを俯瞰していく。



なお、この特別展は、江崎グリコ株式会社と宮本順三記念館豆玩舎 ZUNZO（おまけやズンゾ）の所蔵資料の借用によって開催することができた。この場を借りて、心より謝意を表したい。

### 【展示構成】

#### ◆おもちゃの歩み

この項目では、江崎グリコ株式会社（以下、江崎グリコ）所蔵の資料を展示した。江崎グリコにより、昭和 22 年から現代までの代表的なおもちゃが約 500 点、約 5 年ごとを目安に各テーマで下記の通り構成されている。今回は、各テーマを時代順に展示した。

昭和 22 年（1947）～27 年	「おもちゃ復活」
昭和 28 年（1953）～32 年	「ミニチュアコレクション」
昭和 33 年（1958）～41 年	「プラスチック登場」
昭和 42 年（1967）～48 年	「男の子、女の子おもちゃ」
昭和 49 年（1974）～55 年	「大きくカラフルなおもちゃ」
昭和 56 年（1981）～61 年	「SF・メルヘンおもちゃ」
昭和 62 年（1987）～平成 5 年	「みんなであそべるおもちゃ」
平成 6 年（1994）～	「新創作おもちゃ」



年代ごとにおもちゃを見ていくと、素材やモチーフの変遷、消費者に何が求められているのか、といった社会背景がわかりやすい。

#### ー素材ー

戦後すぐ（「おもちゃ復活」）は紙や竹、木などの手に入れやすいもので作られていた。その後、第二次産業が復興、安定してくると、アンチモニーやブリキ、セルロイドなどがおもちゃの世界に帰ってきて、コイルばねなどの仕掛けのあるおもちゃが増加する。昭和 30 年代からは、徐々にプラスチックが導入され（「プラスチック登場」）、現在にいたるまで、スポンジシリーズなども含め、合成樹脂はグリコのおもちゃの中心的な素材となった。逆に、今日では、素材の見直しも行われ、すっきりとした造形の木のおもちゃシリーズが復刻されたケースもある。

### ーモチーフー

戦後はカレンダー（「七曜表」）や巻尺・ノギスなど、実用的なものも多かったが、ブリキなど金属が再び使えるになると、家電製品（「三種の神器」＝冷蔵庫・洗濯機・テレビ）や車のミニチュアが登場し、生活の変化の様子がおもちゃの世界にも見て取れる（「ミニチュアコレクション」）。その後、テレビの普及とともに、アニメーション番組のキャラクターを模したりオリジナルキャラクターを開発したりと、子どもの興味の対象に的確に対応している。



昭和 40 年代は、「男の子グリコ」「女の子グリコ」とおもちゃの内容を性別で分ける時代があって、たとえば、男の子なら車やヒーローもの、女の子ならアクセサリーやままごとのキットが入っていた。

昭和から平成に移り変わる頃、おもちゃ作家の加藤裕三氏が手がける動物や乗り物などのおもちゃが、しかけとデザインのおもしろさで人気を博した。現在も、過去の人気作を素材違いで復刻したり、グリコのおもちゃとしてはかなり大きい木工の車おもちゃを製作したりと、子どもと保護者の安心と安全を意識したおもちゃづくりを続けている。

### ◆「オマケ係」ー宮本順三氏ー

「宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO」（以下、「豆玩舎ズンゾ」）は、その名の通り、初代館長の故宮本順三氏（1915～2004）の個人博物館として、グリコのおもちゃからそのデザインの発想源となった世界のおもちゃたち、氏の油彩画・デッサンなどを収蔵、公開している。



小型拡大鏡

昭和 10 年（1935）に入社した宮本氏は、昭和初期の「広告課景品考案係（氏はオマケ係と表現）」として、おもちゃの創成期を良く知る人物である。入社試験の面接時には、おもちゃの制作に関われるよう社長に直談判したという。おもちゃの箱がお菓子の箱の上に載り、ランナー（ゴールインマーク）がおもちゃを掲げるようにしたのは、氏のアイデアの一例とのこと。戦後は社外からグリコのおもちゃ生産に関わり続け、平成 10 年（1998）には、「豆玩舎ズンゾ」を東大阪市に開館し、グリコのおもちゃや世界旅行の訪問先で集めた小さなおもちゃを展示し、ものづくりの楽しさ、おもちゃの素晴らしさを伝えている。

### 【資料概要】

〈江崎グリコ株式会社所蔵資料〉

大阪市西淀川区の本社敷地内にある「江崎記念館」には、常設展として歴代のおもちゃが展示され、その他に初期のグリコ製造機器や、懸賞品、限定品から歴代のゴールインマークなど貴重な資料も並び、お菓子やおもちゃ好きには堪えられない施設である（見学は要予約）。創業者江崎利一氏の「食べること、遊ぶことは子どもの二大天職」という言葉に裏打ちされる商品展開は、グリコのおもちゃに象徴されている。



江崎記念館

今回の展示のために、昭和 22 年（1947）以降から現在までの代表的なおもちゃ約 500 点を借り受



け、年代別のキャプションはその区分けに従った。

#### 〈宮本順三記念館 豆玩舎ZUNZO所蔵資料〉

今回の展示では、ミニカーの金型や点数制でもらえる引き換え賞品のおもちゃ、おもちゃのデザイン画から中国の天津工場勤務時代の絵ハガキなど、おもちゃのみならず、時代を印象付ける参考資料の数々を借り受け、展示することができた。

関連イベントは後記するが、ズンズスタッフによって行われるワークショップの内容は、これら宮本氏が手がけたおもちゃのアイデアから発展したキットもあり、氏のおもちゃと遊びに対する思いを今の子どもたちに伝えている。



ミニチュアカーの金型

#### 〈安引氏旧蔵資料〉

この資料は、昨年度に寄贈を受けたものだが、昭和20年代後半のグリコのおもちゃが鳥取市に住む少年にとって、どのように受け入れられたかを示すものである。寄贈時の聞き取りによると、買ってもらったグリコのおもちゃの数々を、薄い蓋つきの紙箱に糸で綴じ付け、昆虫の標本のように小学校に持っていくと、ものを大事にしていることを先生に褒められた、というエピソードを明かしてくださった。

その糸は、約60年後の寄贈時にも比較的しっかりと残っており、そのおかげで、保存状態の良い約70点ものおもちゃを実際に目にすることができた。書籍に写真が掲載されているおもちゃが完品でないことを確認したり、豆玩舎ズンズにも所蔵されていない宮本順三氏デザインとされるおもちゃが見つかったりと、この資料的価値は高く、今後の調査・研究にも広く活用したい（口絵参照）。



アンチモニーの動物・恐竜引車



しかけのあるおもちゃ

#### 【関連イベント】

◆「おもちゃの街をつくろう」（期間：9月17日～9月23日、会場：1階企画展示室）

宮本順三氏は、おもちゃの箱をお菓子の箱の上に載せるアイデア以外に、その箱を建物に見立てて、箱自体をおもちゃにすることを発案した。豆玩舎ズンズのワークショップにも登場するキットをわらべ館でも体験する機会を設けた。

今回のワークショップでは、ぬり絵のように〇〇屋とデザインしたものと、参加者が絵を描き、思い思いの建物にするという二つの形式で参加してもらった。また、扱いやすい樹脂粘土を数色組み合わせたキットで、街にあるとおもしろそうなミニチュアを製作した。参加者は、作ったものを持ち帰るか、展示するか選択できるようにした。

1週間の開催期間中に、駅舎や映画館、自分の家を作る小学生がいたり、子どもと一緒に遊んでいる



街全図



「ゆうな」の家



へび、ソフトクリーム

うちに、精巧な野菜のミニチュアをいくつも作るお父さんがいたりして、個々の作品を展示して街が広がっていく様子が楽しめた。

◆「おまけ博士のおもちゃづくり」(期日：10月3日、会場：いべんとほーる)

豆玩舎ズンズの副館長、樋口須賀子氏と、学芸員の磯田宇乃氏に講師を依頼し、ズンズのオリジナルキットを用い、工作イベントを開催した。

まずは、A4の紙に◎◎と印刷したものを渡して、それをどう加工するか、という遊び方。メガネのようにつるを描く子、2台の扇風機にする子、カタツムリを二匹描く子、それぞれが自分で考えながらペンを片手に描き込んでいた。

次に、紙を折り曲げて立体的な動きを生む、カードづくりに取り組んだ。3段の蛇腹状に折り曲げ、中央の折り目に切れ目を入れることで、口のようにぱくぱく動くしかけが生まれる。それを動物の口に見立てて、クマやウサギの顔を描いていく。このしかけは、宮本氏がグリコのおもちゃに用いており、今回の特別展では、昭和20年代後半のトラとクマの2点が並んだ。

今回のワークショップは、キットのおもしろさもさることながら、参加者に楽しんで工作に取り組んでもらう進行法に学ぶところが多く、たとえば、出来上がり順にその場で本人が作品を発表していくようにすると、はじめは恥ずかしがっていた子どもたちの顔が、徐々に誇らしげな表情に変化していった。工作キットとだけ向き合うのではなく、参加者全体で楽しさ、おもしろさを共有していく過程が見られ、今後の工作イベントの参考になるものであった。



作品を講師と参加者で紹介



大人も真剣に考え中



作品発表

【参考文献】

- 『グリコのおまけ型録』同心社編 株式会社八重洲出版 2003年  
『ぼくは豆玩(オマケ)』宮本順三著 山三化学工業株式会社編 いんてる社 1991年  
『創意工夫 江崎グリコ70年史』江崎グリコ株式会社 平成4年  
『グリコのおもちゃ箱』加藤裕三著 アムズ・アーツ・プレス 2002年  
『いま・むかしおもちゃ大博覧会』兵庫県立歴史博物館 河出書房新社 2004年  
『グリコのおまけ』金田理恵構成 筑摩書房 1992年

### 特別展 3

## 「長谷川重隆のハッピー芸術展Ⅱ」

期間：平成21年11月1日（日）～11月15日（日）

会場：1階 企画展示室

#### 【開催趣旨】

日本玩具学会正会員で、当館のおもちゃ資料収集委員を務める長谷川重隆氏は、「駄玩具」のコレクターとして、近現代のおもちゃを数多く所蔵しておられるが、近世以前のおもちゃを実物大で再現するべく、自身で発泡スチロールの玩具模型を制作された。今回は、平成18年度に同展の1回目を当館で開催して以降、新たに制作された作品を展示した。展示資料は、「日本のおもちゃの歴史」をテーマに、中世から近現代の代表的なおもちゃの模型を展示し、来館者におもちゃの歴史に親しんでいただく。



#### 【展示資料ピックアップ】

##### ・4連羽子板

4枚並べた羽子板で一幅の大和絵が完成するようにしつらえた、長谷川氏のアイデア作で、本来の左義長羽子板には無い表現（口絵参照）。

##### ・貝覆い

二枚貝の内側に描かれた絵を合わせていく遊び。対の絵は丁寧に描かれているのはもちろんだが、貝の外側も本物のはまぐりのような質感が出ていて、観る人を驚かせていた。



##### ・蹴鞠

本物の蹴鞠は、鹿の皮を縫い合わせてできている。発泡スチロールでも、単なる球体にするのではなく、本物同様に少したわんだ感じを出している。ひもの房先の細かさが目を引く（口絵参照）。



##### ・電車まわり

明治～大正期のぜんまいで動くブリキ製おもちゃ。塗装の剥げた質感を出し、ジオラマの細部を表現するのに苦心されたとのこと。

#### 【ハッピー芸術】

材料の発泡スチロールは、贈答品の梱包材を解体したり、噂を聞いた有志から贈られたりと、リサイクルの賜物。左義長羽子板など作品の写真を見た小林すみ江氏（「人形の吉徳」資料室長）から、「ハッピー芸術」の名を贈られた。長谷川氏自身による制作談と作品発表は、2007年の日本人形玩具学会総会で行われた（同会誌『人形玩具研究-かたち・あそび-』第18号（2007年）に掲載）。



§ わらべ館 ギャラリー童夢企画展 アンケート集計 §

当館では、館全体に関するアンケートを入館者から募集しているが、ギャラリー童夢企画展では、平成 19 年度から展示ケースの横に下記の設問のアンケート用紙を設置し、ご覧になった方からの回答を集めている。年間 4 回の各企画展の内容によって、回収数は幅が生じているが、観覧者のご意見を収集し、今後の展示に活かしていきたい。

〈設問〉

- 1-① 住まい 鳥取市内 鳥取市外（記入） 県外（記入）  
 -② 年齢 10代以下～70代以上  選択
- 2 企画展を何で知りましたか（選択）  
 館内の案内（ポスター等） 館外のチラシ・ポスター（場所記入） わらべプレス（HP）  
 新聞 その他（記入）
- 3-① 企画展のテーマは 興味を持てる あまり興味がない 興味がない  選択  
 具体的には（記入）  
 -② 展示の内容は おもしろい まあまあおもしろい つまらない  
 わかりやすい 少しわかりにくい むずかしい  選択・複数回答可  
 具体的には（記入）  
 -③ 今後見てみたい企画展のテーマは（記入）
- 4 どのような企画展の関連イベントに参加したいですか  選択・複数回答可  
 ギャラリートーク ものづくり・工作 おもちゃ・遊びの体験  
 具体的には（記入）
- 5 2階と3階の「おもちゃの部屋」の感想（記入）

【団欒のカード&ボードゲーム】

- ・回収数…63
- ・3-① 興味を持てる 50 あまり興味がない 9 興味がない 4  
 具体的には・・・実際に展示してあるゲームで遊べる企画がほしい（土日祝、長期休み）
- 3-② おもしろい 38 まあまあおもしろい 18 つまらない 2  
 わかりやすい 11 少しわかりにくい 4 むずかしい 3  
 具体的には・・・説明してほしい。・1つ1つに説明があって良い。・触って遊べるように。
- 4 ギャラリートーク 7 ものづくり・工作 28 おもちゃ・遊びの体験 24

【しかけのおもちゃ】

- ・回収数…45
- ・3-① 興味を持てる 39 あまり興味がない 4 興味がない 5  
 具体的には・・・からくりは好き。
- 3-② おもしろい 35 まあまあおもしろい 8 つまらない 5  
 わかりやすい 8 少しわかりにくい 2 むずかしい 2

具体的には・・・実際に触れたかった。

4 ギャラリートーク 6 ものづくり・工作 25 おもちゃ・遊びの体験 26

#### 【平成 20 年度新収蔵資料展】

・回収数…17

・3-① 興味が持てる 11 あまり興味がない 5 興味がない 1  
具体的には・・・古いからおもしろい。

3-② おもしろい 11 まあまあおもしろい 5 つまらない 1  
わかりやすい 5 少しわかりにくい 0 とてもむずかしい 0  
具体的には・・・なつかしい。

4 ギャラリートーク 2 ものづくり・工作 9 おもちゃ・遊びの体験 9

#### 【ようこそ！寅の穴ー干支の郷土玩具展】

・回収数…16

・3-① 興味が持てる 11 あまり興味がない 4 興味がない 1  
具体的には・・・つまらない。

3-② おもしろい 9 まあまあおもしろい 3 つまらない 1  
わかりやすい 4 少しわかりにくい 1 むずかしい 1  
具体的には・・・「昔のトラをつくろう」がおもしろい。よくわからない。

4 ギャラリートーク 0 ものづくり・工作 5 おもちゃ・遊びの体験 6

#### 【設問 4 希望するギャラリー童夢企画展関連イベントについて】（具体的に）

- ・折紙・木や紙のできる工作（木のビー玉迷路）・昔のおもちゃ体験・かるたや動物を作りたい。
- ・独楽回し（体を使った遊び）・お菓子づくり・年代別の遊び・レゴで物作り・ロボット作り

#### 【設問 5 おもちゃの部屋の感想】

- ・人が少ないので、活用案を ・もう少しユーモアを ・大きい子用を作ってほしい
- ・チェブラーシカなど世界のキャラクター展示を ・大人は楽しいが、子どもには退屈
- ・2階の楽器が良かった。楽譜が欲しい ・懐かしい気持ちになれた ・3階のロボットがかっこいい
- ・いろいろな種類も数もあって良かった ・なるほど！と思うものがいっぱいあった
- ・子ども用に簡単な説明文がほしい ・旅先で買ったこけしを思い出し、なつかしかった
- ・頭の体操になり楽しかった ・工作好きの子どもが楽しんでいる
- ・昔のは意味がわからないが、興味はある ・2階は楽しいが、3階は微妙
- ・私は 83 歳ですが、子どもになりました

#### ◆まとめ

このアンケートに記入されるのは、観光や帰省による県外在住の来館者が多い。今後は、地元在住のリピーターに、より観覧いただけるよう体験型の展示も増やし、常設展との差異を際立たせたい。

わらべ館の今まで（主におもちゃ関連の事項を掲載）

年	月 日	出 来 事
1995 (平成 7)	7月 5日	ヘッセン人形博物館との間に姉妹館提携協定を締結
	7月 7日	わらべ館開館
1999 (平成 11)	11月 23日	「おもちゃ講演会」(年1回開催) 始まる。講師：和久洋三氏 (おもちゃ作家)
2000 (平成 12)	9月 14日	ヘッセン人形博物館との姉妹館提携5周年の記念に「姉妹館交流5周年展」を開催
	11月 23日	おもちゃ講演会 講師：岩城敏之氏 (おもちゃ研究家)
2001 (平成 13)	11月 20日	3階おもちゃの部屋に「姉妹館交流コーナー」を新設
	6月 23・24日	おもちゃ講演会 講師：檜山永次氏 (おもちゃ作家)
2002 (平成 14)	2月 21日	3階の新着資料コーナーを「ギャラリー童夢」とし、企画展を開催
	6月 15日	おもちゃ講演会 講師：多田千尋氏 (おもちゃ研究家)
2003 (平成 15)	7月 13日	おもちゃ講演会 講師：松本零士氏 (漫画家)
	10月 23日	ヘッセン人形博との人形交流始まる。カスパール人形⇔千支の郷土玩具
2004 (平成 16)	6月 13日	ヘッセン人形博との人形交流② ケテクルーゼ人形⇔因伯牛の木彫り
	6月 19日	2階おもちゃの部屋の体験スペースを拡張
	9月 23日	おもちゃ講演会 講師：北原照久氏 (おもちゃコレクター)
2005 (平成 17)	7月 7日	ヘッセン人形博との人形交流③ トラハテンプッペン⇔押し絵羽子板
	9月 17日	おもちゃ講演会 講師：藤田由仁氏 (日本独楽博物館館長)
2006 (平成 18)	8月 23日	ヘッセン人形博との人形交流④ 「星の銀貨」人形⇔五月人形「金太郎」
	11月 26日	おもちゃ講演会 講師：長谷川重隆氏 (おもちゃ研究家)
2007 (平成 19)	10月 13日	おもちゃ講演会 講師：松本夏樹氏 (映像研究者)、小崎泰嗣氏 (活動弁士)
	11月 5日	ヘッセン人形博との人形交流⑤ 「ケテ・クルーゼ」人形⇔「リカちゃんセット」
2008 (平成 20)	10月 18日	おもちゃ講演会 講師：山田勝久氏 (折紙作家)
		ヘッセン人形博との人形交流⑥ 「バランス人形」⇔「超合金 仮面ライダー」
2009 (平成 21)	10月 18日	おもちゃ講演会 講師：ねもといさむ氏 (おもちゃデザイナー)
		ヘッセン人形博との人形交流⑥ ⇔「日本の木のままとセット」

ギャラリー童夢展示履歴

年度	期 間	タ イ ト ル
平成14年度	2月21日～5月14日	「鳥取の郷土玩具展－節句のおもちゃたち－」
	5月16日～8月20日	「板裕生の世界～裕生が愛した鳥取のおもちゃたち～」
	8月21日～10月8日	「鳥取の郷土玩具作家三人展」
	10月9日～12月17日	「東北のこけしたち」
	12月19日～翌3月18日	「ひつじの郷土玩具展」
平成15年度	3月20日～6月17日	「雛と天神」
	6月19日～9月16日	「愛され続けた市松人形」
	9月18日～12月16日	「雅な遊び」
	12月18日～翌3月16日	「申」
平成16年度	3月18日～6月15日	「押し絵～絵と工芸の融合～」
	6月19日～9月14日	「立版古～錦絵に込められた小世界～」
	9月16日～12月14日	「からくりの機素～物の動く仕組みを理解しよう～」
	12月16日～翌3月15日	「酉」
平成17年度	3月19日～6月14日	「テディベア～100歳を超えた友だち～」
	6月16日～9月9日	「山本千恵子 和紙人形の世界」
	9月10日～12月20日	「こま コマ 独楽」
	12月22日～翌3月14日	「戌年来る」
平成18年度	3月16日～6月20日	「扇は胡蝶と戯れて～伝統遊戯 投扇興」
	6月22日～9月19日	「ドイツと鳥取 おはなしの世界」
	9月21日～12月19日	「懐かしさと新しさと－昭和30年代の子どもたち」
	12月21日～翌3月21日	「日本のいのしし」
平成19年度	3月23日～6月19日	「少女の”夢”とリアル～着せかえ人形展～」
	6月21日～9月18日	「木のおもちゃ展－鳥取の木で遊ぶ－」
	9月20日～12月18日	「あやなす光と影 光学おもちゃと影遊び」
	12月20日～翌3月18日	「ちゅうちゅうねずかいな」
平成20年度	3月20日～6月17日	「T o y 楽器展」
	6月19日～9月15日	「プラモデル in 鳥取」
	9月16日～12月16日	「おりがみ折紙 origami」
	12月18日～翌3月17日	「うしにひかれてわらべ館」

『ギャラリー童夢企画展報告書 万遊鏡』第5号  
発行 平成22年3月31日  
編集 財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館（わらべ館）  
〒680-0022 鳥取市西町3丁目202  
Tel 0857-22-7070 Fax 0857-22-3030  
印刷 日ノ丸印刷株式会社